

地域課題の解決に向けた取組

赤井川村との連携による地域振興

石狩森林管理署

【はじめに】

赤井川村は札幌市や小樽市の西方に位置し、同村の中心部は四方を山で囲まれた「カルデラ」状の地形をなしており、この外輪山の上部が国有林、山麓部が民有林となっています。

石狩森林管理署では、こうした立地状況を踏まえ、赤井川村においては特に民有林と国有林の連携を重視しています。

【赤井川村の林業の課題】

赤井川村では、人口減少に歯止めをかけ、将来にわたって魅力と活力を維持していくため、農林業、観光、リゾートの振興を3本の柱として取り組んでいます。このうち林業については、近年は村の事業としては、間伐材を搬出・利用する搬出間伐の実績に乏しい状況となっています。

このため、石狩森林管理署では、民有林と国有林が隣接する地域で森林共同施業団地の設定を目指し、共同で使用する中間土場（木材輸送のための集積場所）を設置し、間伐材を共同で販売する計画を赤井川村に提案しました。現在、その実現に向け、民有林の上空から撮影したドローン画像の提供や間伐の材積を把握するための森林調査の勉強会の実施など技術的な支援を行っています。

今後は、森林共同施業団地の具体的な計画を当署と同村で持ち寄って、令和5年度内に当該団地の実施計画となる森林整備推進協定を結ぶこととしています。

【赤井川村の観光資源の魅力向上】

赤井川村と余市町境の冷水峠には、平成19年に同村が設置した「カルデラ展望所」がありますが、国有林に植栽したカラマツの成長に伴い、それまで一望できていたカルデラの田園風景や外輪山、さらには羊蹄山やニセコ連峰の眺望が妨げられるようになってしまいました。

カルデラ展望所は同村の貴重な観光資源であることから、同村と当署で平成30年に「ふれあいの森」の協定を結び、毎年合同で森林整備を行っています。本年は赤井川村のキロロリゾートの関係者も参加して盛大に行われ、カルデラの眺望を見事に回復させることができ、今後の利用者の増加が期待されます。

【今後に向けて】

赤井川カルデラの一部を構成する赤井川村の国有林での活動を通じて、今後とも同村との連携を深め、地域における林業や観光業の発展に寄与できればと考えています。



森林調査勉強会の様子



森林整備により眺望が回復したカルデラ展望所